

人権センターだより

男女共同参画ってどういうこと？ ～あなたがいる わたしがいる 未来がある～

日本では、従来「男は仕事、女は家庭」と言われてきました。古く日本の典型的な夫婦関係は、会社で働く夫（父親）が一家の稼ぎ手として家計を支え、妻（母親）は家事や育児あるいは介護などに専念する。というものでした。妻（母親）がパートなどで働くこともあります。それはあくまでも補助的な収入のためであり、家庭をおろそかにしない範囲でのことだったのです。冷静に考えれば、女性だからといって家事などが上手であるとは限りませんし、男性だからといって仕事の能力が高いともかぎりません。しかし、私たちが持っている「男らしさ」「女らしさ」についてのイメージの中では、「男は仕事、女は家庭」が当然とされていたのです。そんな考えは古くて今どきの人はそんな意識はないと思っても、もし、あなたが男性で、「女性も仕事をするべきだけど、家庭も大事にして欲しい」と考えているのであれば、ちょっと待ってください。女性に仕事も家庭も求める男性のあなた自身

は「仕事も家庭も」同じくらい大事にするつもりがあるのでしょうか？自分が仕事から早く帰った日には、自分が晩御飯の準備をするのは当然だと思っているのでしょうか？妻が休日出勤の時には、自分ひとりで子どもの世話をするつもりでいるのでしょうか？

男女共同参画というとりわけ男性の中にはいい顔をしない人、あからさまに拒否反応を示す人がまだまだたくさんいます。そういう人は、男女共同参画の推進を、男性を悪者に見立て批判することだと思っているのではないのでしょうか。

男性・女性のどちらかが優遇されるようなことではなく、男性も女性も、「女性だから〇〇」「男性だから××」という意識に基づいた役割分担の殻に閉じ込められることがなく、お互いを認めあい尊重していきましょう、というのが男女共同参画なのです。

それは女性だけでなく、男性にとっても幸せな社会、それが私たちの目指す男女共同参画社会です。

交通事故からあなたの未来を守る
自賠責保険・自賠責共済

切れていませんか？ 自賠責の有効期限!!

交通事故による死者数は年々減少傾向にあるものの、平成23年の事故発生件数は約69万件、死傷者数は約85万人と、国民の誰もが交通事故の被害者にも加害者にもなり得る極めて深刻な状況となっています。

交通事故は車社会の負の部分であり、被害者にとっても加害者にとっても悲惨な結果をもたらすものです。

自賠責保険・共済は、すべての自動車の保有者に、自動車1台ごとに加入が義務づけられており、基本的にすべての加害者の賠償責任を担保するとともに、すべての被害者の基本的な賠償を保障する制度であり、被害者の保護を目的としています。

一人一人が、より一層自賠責制度の役割・重要性や、保険金・共済金の支払いのしくみなどを十分に理解・認識することがとても大切です。

自賠責保険・共済なしでの運行は法令違反です！

自賠責保険・共済は、万一の自動車事故の際の基本的な対人賠償を目的として、原動機付自転車を含むすべての自動車に加入が義務づけられており（自動車損害賠償保障法）、自賠責保険・共済なしでの運行は法令違反ですのでご注意ください！

四輪車もちろんですが、特に車検制度のない250cc以下のバイク（原動機付自転車・軽二輪自動車）は、有効期限切れ、かけ忘れにご注意ください。

なお、自賠責制度の詳細内容は、<http://www.jibai.jp> でご覧になれます。

お問い合わせ先 国土交通省北陸信越運輸局 長野運輸支局輸送・監査部門 TEL. 026-243-4603